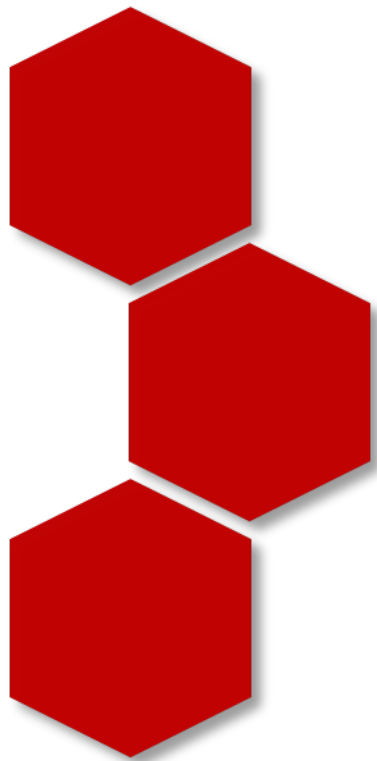




中央共同募金会「救護施設等のセーフティネット機能強化助成事業」



慈照園における 赤い羽根福祉基金助成事業の 成果と課題



赤い羽根
福祉基金

静岡県 救護施設 慈照園

指 導 員	梅 田	樹
指 導 員	神 谷	信 介
介 護 職 員	中 山	文 恵
指 導 員	平 野	正 樹



1.

本日の内容

- 事例報告のテーマ
- 助成事業の目的
- 助成事業の内容
- 助成事業の成果
- 助成事業の課題
- まとめ

※掲載写真はご本人の了解を得ています



赤い羽根
福祉基金

2.

事例報告のテーマ

救護施設における精神障害者の地域移行の促進および地域生活定着のためには、どのような支援が必要か 検討する。



赤い羽根
福祉基金

3.

助成事業の目的

- 地域移行には施設入所中から地域生活を見越した準備が必要である。
- 施設生活に慣れてしまい地域移行の意欲が減退することを防ぐ手立てが必要である。(地域移行への意欲喚起こそが重要である)
- 退所後も人的つながりが必要である。
上記のために助成事業を企画・実施した。



4.

助成事業の内容

事業名: 救護施設における精神障害者の地域移行と
自立生活の継続支援に向けた事業(地域サロン事業
短期居宅生活訓練事業)

(1) 地域サロン事業

(2) 短期居宅生活訓練事業



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

(1)地域サロン事業

- 地域移行の拠点となる施設の確保
 - ・就労支援 園内作業(内職作業)場として利用
 - ・クラブ活動・余暇支援
 - ・カフェ開設による施設利用者と地域ボランティア、
退所者、地域住民との交流促進
- 地域移行促進のための学習講座の実施



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

拠点となる施設の確保



拠点施設 第二あすなろ工房 外観



拠点施設 第二あすなろ工房 外観



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

拠点となる施設の確保

慈照園



拠点施設



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

就労支援 園内作業



第二あすなろ工房 園内作業風景



第二あすなろ工房 入口



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

クラブ活動



茶道クラブ



書道クラブ



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

クラブ活動

昼食づくり



絵手紙クラブ



地域生活を続けるための昼食づくり



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

<アパートで暮らすためのお役立ち講座>

2019(令和元)年度 3回

2020(令和2)年度 3回

2021(令和3)年度 1回 (2回これから実施予定)



赤い羽根
福祉基金

<2019(令和元)年度>

第1回	2019年12月11日	場所:クリエート浜松	講師:鈴木 美絵さん (プランセンターひくま)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために～どこで どんな支援が受けられますか～」	利用者19名 職員5名(救護2施設)
第2回	2020年1月29日	場所:あいホール(浜松市男女共同参画文化芸術活動推進センター)	講師:大杉 友祐さん (居住支援法人 天竜厚生会)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために～アパートはどうやって選びますか～」	利用者16名 職員6名(救護2施設)
第3回	2020年3月11日	場所:慈照園 食堂	講師:服部 恒子さん (慈照園 看護師)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために～健康でくらし続けるために～」	利用者48名、職員10名(救護1施設)

<2020(令和2)年度>

第4回	2019年9月16日	場所:あいホール(浜松市男女共同参画文化芸術活動推進センター)	講師:野中 正子さん他1名 (浜松市消費者団体連絡会)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために ～安全・安心な生活をおくる～」	利用者17名 職員5名(救護2施設)
第5回	2020年10月28日	場所:浜松市福祉交流センター21会議室	講師:山口 美津子さん (訪問看護ステーション住吉)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために ～健康で元気に暮らしつづけるために～」	利用者18名 職員5名(救護3施設)
第6回	2021年3月10日	場所:浜松市福祉交流センター21会議室	講師:三浦 達也さん(ソーシャルインクルー ブ浜松神田町 施設長)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために ～住まいを考えるパート2:グループホームという住まい方」	利用者17名 職員4名(救護1施設、2施設は後日動画視聴)

<2021(令和3)年度>

第7回	2021年6月9日	場所:浜松市福祉交流センター43会議室	講師:山田 栄養士さん・杉野 保健師さん(浜松市中央保健福祉センター)
		テーマ:「地域でアパート生活を送るために ～食事と栄養のはなし～」	利用者17名 職員5名(救護2施設)
第8回	未定	場所:未定	
		テーマ:スポーツ交流 (ボッチャ あるいはソフトボール)	
第9回	未定	場所:未定	
		テーマ:バーベキュー (交流行事)	

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

<まとめた言葉>

ご ごはん:食事と栄養に注意する

お お金:金銭管理(自分ができなければ援助求める)

く くすり:服薬管理

え 縁(えにし):相談できる人と場所をもつ

ん



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (1)地域サロン事業

拠点施設における「コーヒー淹れ方教室」

元職員 齋藤 直美さんを講師に「おいしいコーヒー淹れ方教室」を企画中 新型コロナウイルス感染予防対策のため
待機中

地域移行をめざす利用者と退所者の交流や地域のボランティアとの交流を模索



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業

(2)短期居宅生活訓練事業

慈照園近くのレオパレス1室を借り上げ、アパートでの单身生活を体験する。日中は慈照園の日中活動(園内作業など)に参加する。利用者自身が自分のできるところと課題を見つける。

利用者によっては、朝食と夕食を自分で用意する。(自分で調理する、あるいはお弁当などを購入する など)



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業



訓練アパート 外観



訓練アパート 入口



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業



訓練アパート 内部の様子



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業



夕食のようす



夕食の調理風景



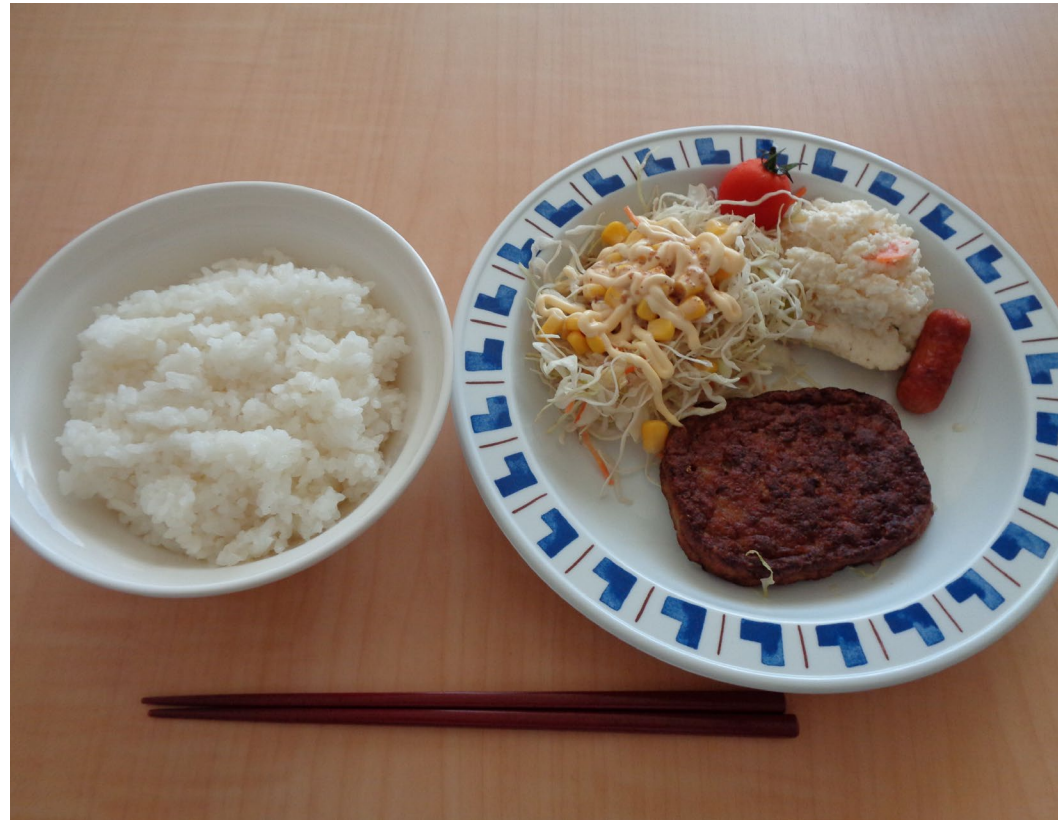
赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業



朝食



夕食



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業

利用者数 12名 (2019年11月30日~2021年9月30日現在)

利用者名	年齢	利用期間	結果
Aさん	40歳代	2019.11.30~2020.2.1	地域移行 (一般就労)
Bさん	50歳代	2020.2.2~2020.5.26	地域移行 (一般就労)
Cさん	40歳代	2020.6.5~2020.8.31	
Dさん	40歳代	2020.9.2~2020.9.30	居宅生活訓練
Eさん	50歳代	2020.10.4~2020.11.26	居宅生活訓練

赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業

利用者名	年 齢	利用期間	結 果
Fさん	50歳代	2020.12.2~2020.12.19	
Gさん	50歳代	2020.12.25~2021.2.27	
Hさん	40歳代	2021.3.15~2021.3.29	
Iさん	40歳代	2021.4.20	不調で中止
Jさん	50歳代	2021.4.27~2021.5.9	不調で中止
Kさん	50歳代	2021.5.29~2021.6.12	
Lさん	40歳代	2021.6.18~	



赤い羽根
福祉基金

4.

助成事業の内容 (2)短期居宅生活訓練事業

その方の状況にあわせてアパート利用

施設入所後、はじめてのアパート生活

最大の成果は、施設生活ではわからなかった、

その方の課題がわかったこと



赤い羽根
福祉基金

5.

助成事業の成果

- 参加者から地域移行者がでた
アパート5名 グループホーム3名（3年間）
- 拠点施設を地域移行意欲喚起のために利用できた
- 障害福祉サービスのグループホームと連携できた
- 浜松市内の救護施設間の共同の取り組みができた



赤い羽根
福祉基金

6.

助成事業の課題

- 施設利用者と地域のボランティア、退所者、地域で生活する当事者との交流はできなかった
- 精神科病院や精神科クリニック、基幹相談支援センターなど他種の社会資源とのつながりは作れなかった
- 地域定着支援のためには地域活動支援センター的な居場所づくりとインフォーマルなつながりも必要になる



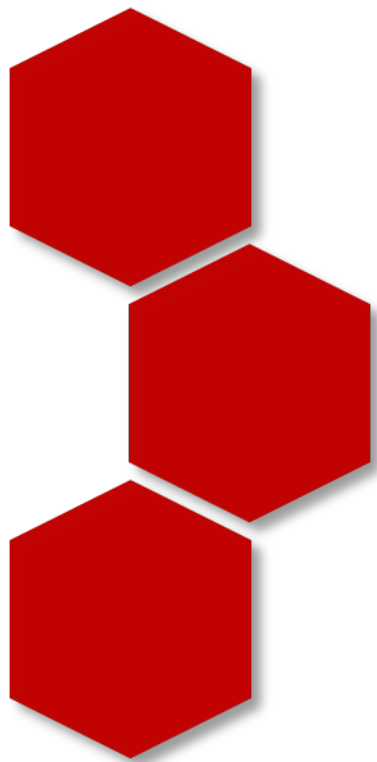
赤い羽根
福祉基金

7.

まとめ

- 地域移行には施設入所中から地域生活を見越した準備が必要である。→ **達成できた**
- 施設生活に慣れてしまい地域移行の意欲が減退することを防ぐ手立てが必要である。(地域移行への意欲喚起こそが重要である) → **達成できた**
- 退所後も人的つながりが必要である。
→ **未達成である**





ご清聴ありがとうございました



赤い羽根
福祉基金